

大阪新聞錦画 第4号

武勇小谷村の平左門といふもの常い
 悴ふ云ふ若弟丸太と二人あて託成
 を取らぬいまだ定まぬの事もあられ
 皆禮儀の前でして呉れと云ふ明治八年
 四月として平左門の頭死す彼の遺言を
 信ト急ぐ近辺由門が暇を以て貰請
 野送りの日ハ棺の前ハ花嫁入込み飲ひや悔
 ちら高砂念佛のうやを贈物事うれを
 有る物世ふ云ふ泣笑ひの放言宜あつた遺言
 も老へて云ふ難儀あつた出来うへ
 續々百一号く出たり

々々花堂誌

